

加熱実験炉を用いた分解・生成物調査

次のような問題やお悩みをお持ちでしょうか？



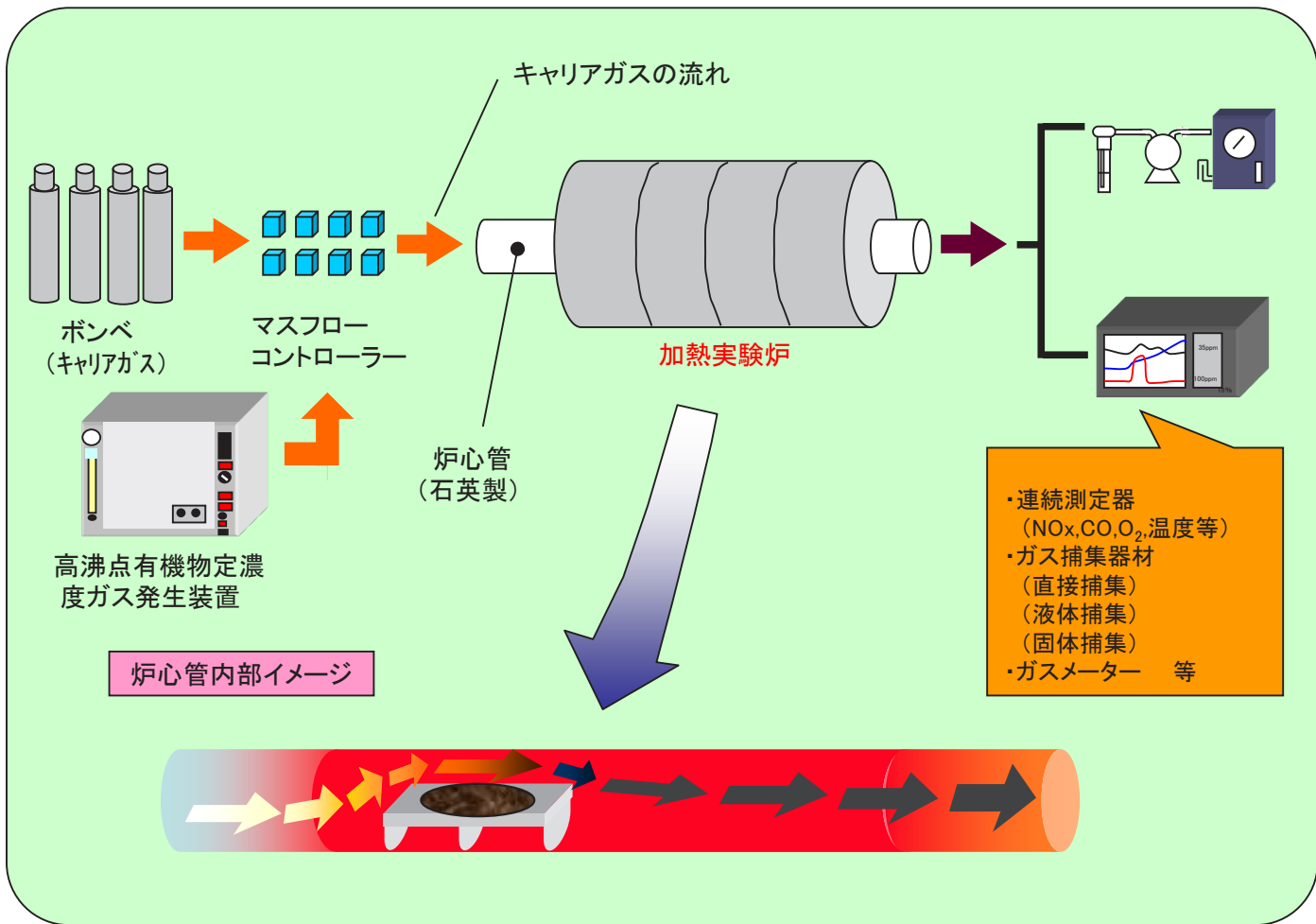
- ・忙しくて実験をする時間が取れない…
- ・実験をしたいが試料調製してから渡すのは手間がかかる…
- ・加熱後の残渣についても成分を調べたい
- ・簡単な実験なんだけどお願いできるのかな…
等々

そのような時は、是非 日鉄住金テクノロジー(株)広畑事業所にお任せ下さい！

- ・お客様の細かなご要望に沿った実験をいたします。
- ・当社は総合試験分析会社ですので、
試料調製をはじめ成分分析など多様な分析に自信・実績があります。
- ・簡単な条件、測定項目でも迅速、確実に対応させていただきます。



当事業所は下記のような「電気式環状加熱実験炉」を2台保有しております。



加熱実験設備の概要

加熱実験炉の特徴

1. 内部が約30cm×3つのゾーン(実験炉A)及び約30cm×4つのゾーン(実験炉B)で構成しており、実験炉の連結使用も可能。(写真1参照)
2. ゾーン単位で温度制御が可能。
3. 最高温度は実験炉Aで1100°C、実験炉Bで900°C
4. 昇温速度の設定も可能。(例:10°C/min)
5. 炉心管は石英製。(内径:50mm, 外径:55mm)(写真2、3及び4参照)
6. キャリアガスは市販のボンベガス。
7. 複数のガスを混合して供給可能。
8. 有機化合物を一定濃度発生させ、供給することが可能(写真6参照)
9. キャリアガスはマスフローコントローラーにより、約0.1~15L/minで調節可能。(写真5参照)
10. 試料ポートは、ステンレス製と石英製を保有。
11. 試料は任意のタイミングで挿入可能。
12. 実験できる最大試料量は汚泥の場合で約20g。

加熱実験炉の実績

- ・ダイオキシン類の発生実験
- ・再加熱(二次加熱)実験
- ・フィルター性能実験
- ・有機物分解実験
- ・ダイオキシン類の再合成及び分解実験
- ・発生物質抑制実験
- ・目的成分の回収実験
- ・製品、部材等の加熱発生物調査 など



写真1 電気式環状加熱実験

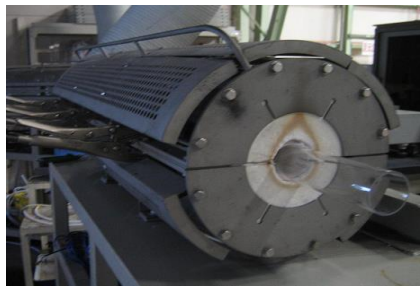


写真2 炉心管をセットした状態



写真3 炉心管内にポートを挿入した状態

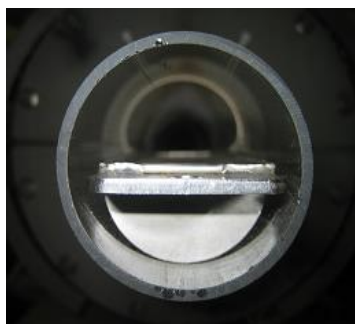


写真4 炉心管内にポートを挿入した状態



写真5 各種マスフローコントローラー



写真6 高沸点有機物定濃度ガス発生装置

当社は、試料調製(粉碎や粒度調整など)から原料分析、水質・大気分析、ダイオキシン類分析・解析業務まで幅広く対応が可能で、実績も豊富です。当加熱実験炉を用いることで、お客様の研究開発・問題解決のお手伝いができると考えております。

まずはお気軽にお問い合わせ下さい！



加熱実験が必要な場合には是非、当社加熱実験炉の活用をご検討下さい。